

1 倉敷市第二次緑の基本計画の進捗状況等について

No.	ご意見・ご質問	審議会時の回答 及び 今回補足事項
1	2ページ目の緑地率について、具体的にどのようなことをすれば緑地率が上がるのか。	公園や小学校、神社などに緑地を整備することにより上げることができる。まびふれあい公園や山陽ハイツの跡地に公園を整備する予定なので、そのような形で緑地率を上げていきたい。
2	4ページ目の緑のまちづくり活動に関わりたいと思っている人の割合が年々減少しており、目標年度の17年度と比較するとかなり開きが出てきている。何か対策等を行っているのか。	ここ3年は、新型コロナウイルス感染症の影響でイベントへの参加者等が少なかった状況だったが、最近では、桜の植樹イベントやガーデンパスツアーなどを実施したところ参加者がかなり多くなった。このようなイベントを通じて緑のまちづくり活動に関わりたいと思う人を増やしていきたい。
3	緑が増えていくと、逆に緑に関わりたいと思う人は減っていくのでは、とも思うが、そのような傾向などはないのか。	緑にかかわりたい人は減少しているが、これは緑が増えているためというよりは、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、イベント等への参加を控えようと思う人が多かったためだと考えている。
4	3、4ページ目のグラフを見ると、30歳代の結果では、緑のまちづくり活動に関わりたいと思う人が多い一方で、緑の量に満足している人が少なめである。その理由について何か分析しているか。 また、30歳代の緑に対する満足度を向上させることができれば、全体の指標も上がってくるため、何か対応を考えているか。	緑の量が多いと感じている人の割合のアンケートで、30歳代は、普通という回答が51%である。これについては改めてアンケートで聞かれると、多いとまでは言えないけど少ないとも言えず、とりあえず普通と回答されたのかもかもしれないとは考えている。
5	アンケートに自由記述の部分を設けていれば、アンケートを解析するうえでヒントになるようなことがあるので、今後検討していただければと思う。	今後検討する。 <b>【補足事項】</b> アンケートの自由記述を含めて、解析のヒントとなり得る情報収集の方法を検討し、より一層深くアンケートを解析していきたいと考えている。
6	緑地率の工場緑化の部分で、精査したところ緑地率が減少したとのことだが、何が変わったのか。	毎年工場立地法の緑地について、他部署から、再計算をしたところ重複してカウントしている等の部分があるとの連絡があり、その結果、緑地率が減少したものである。

2 大気常時監視測定局の適正配置について

No.	ご意見・ご質問	審議会時の回答 及び 今回補足事項
1	今回の見直しでは23局を20局に減らすということだが、それでもまだ測定局数が多いように感じる。これをもう少し減らすといったことは考えていないのか。	今回の検討では20局に減らす結果となったが、倉敷市では公害の歴史もあり、特に水島コンビナート周辺については手厚く監視していく必要もあるので、今回提示の案となっている。
2	市民から、この地点で測定をしてほしいなどの要望はあるのか。	過去にはそのような要望を受けたこともあり、その際は近隣の測定局の結果で代替ができることのお答えをしている。
3	統合について、天城と郷内の間にある低山の影響により、測定結果が変わってくるということはないのか。	今回、3キロメートル以内の近隣局を対象に評価を行った。ご質問のとおり、天城と郷内には地形的な影響も考えられるが、一致性の評価などを行ったところA評価となり、統合対象としている。
4	光化学オキシダントの濃度が昔と比較して低下していない。どのようにしたら濃度が下がっていくのか。	光化学オキシダントを生成する原因物質は窒素酸化物と揮発性有機化合物といわれており、これらが太陽光と反応することにより光化学オキシダントが生成するとされている。窒素酸化物や揮発性有機化合物は工場や自動車から発生するものであり、発生源対策を進めていることによりこれら原因物質の濃度は低下しているが、それでも光化学オキシダント濃度の低下は見られない状況である。光化学オキシダント

No.	ご意見・ご質問	審議会時の回答 及び 今回補足事項
		<p>トの濃度が低下しないのは、大陸からの越境汚染が原因の一つともいわれている。</p> <p>光化学オキシダントについては、国においても濃度を低減させるため様々な調査、解析が行われており、光化学オキシダントの主成分はオゾンで、このオゾンの生成機構の解明や、効果的な発生源対策の検討なども進められているところである。</p>
5	<p>県の光化学オキシダント情報のメール配信を受けているが、これは今回議論している測定局で測定されたものを基に配信されているのか。</p>	<p>今回議論している測定局で測定された値が、光化学オキシダント情報の発令基準を超えた場合にメール配信されるようになっている。</p>
6	<p>4 ページ目の表 1 について、測定項目によって近隣局として一括りにしているまとまりの数が違っている。まとまりの数についてはどの項目も同一になると思うが、同一でない理由を教えてください。</p>	<p>測定局によって測定項目が異なっており、SO<sub>2</sub>を測定している局であってもNO<sub>2</sub>を測定していないなどがあるためである。</p>
7	<p>3つの測定局を統合することにより、経費的にはどのようなようになるのか。</p>	<p>測定局の統合により、まず統合される側の測定局の解体費用がかかるが、一方で、測定局内に設置している大気の自動測定機について、更新費用やメンテナンス費用が不要になる。</p>
8	<p>呼松局で二酸化硫黄の測定をやめるとなると、呼松局では浮遊粒子状物質しか測定しないこととなる。浮遊粒子状物質だけを測定する意義がどこまであるのかとも思うが、どのように考えているのか。</p>	<p>今回の検討では、二酸化硫黄は近隣局で代替できる結果となったが、浮遊粒子状物質はそのような結果にはならなかった。また、呼松局は水島コンビナート周辺ということもあり、浮遊粒子状物質だけではあ</p> <p>るが、継続して監視が必要と考えている。</p>

補足事項：審議会時の回答以外で、委員の皆様にお知らせすべき内容・市の考えなどを補足したもの